

諸外国の小学校における総合芸術教育の取り組み

A study on integral art education at elementary schools in some foreign countries

井上 朋子* (平成25年2月6日受理)

要約

近年、諸外国では、音楽科と図画工作科（美術科）を総合的・横断的に学習するためのカリキュラムや教材が開発されている。本論では、アメリカ、ドイツ、台湾、中国における総合芸術教育の現状について把握するため、各国の教育課程及び教科書を調査し、この4カ国と日本における総合芸術教育の取り組みとを比較した。そして、日本における総合芸術教育の展望を明らかにした。

キーワード：総合芸術教育、音楽教育、美術教育

keywords : integral art education, music education, visual art education

1. はじめに

近年、芸術教科では「表現力の育成」がしばしば指摘されている。それは技術指導に偏らず、児童の感性や想像力を働かせ、思いや意図を表現することが重要視されてきたからである。その結果、他領域と関連付けたり、複数の感覚を統合的に用いたりする学習が多く見られるようになった。例えば、音楽科では、図形譜や手作り楽器の製作といった造形領域と関連をもつ学習、また図画工作科においても、音や音楽の印象を絵画表現する等の音楽領域と関連をもつ学習が行われている。しかし、音楽科と図画工作科の教科書において同類の教材が掲載されていたり、他学年と重複していることも多く、教科間の連携があまり取られていないのが現状である。

一方、諸外国では、音楽科と図画工作科とを総合的・横断的に学習するためのカリキュラムや教材が開発されている。例えば、アメリカの『全米芸術教育標準』の内容標準では、「芸術領域や他教科との関連性に関する事項」が記され、また、ドイツ、バイエルン州の教授プランには教科間の関連性が具体的に示されている。そして、中国では、音楽科と美術科の教育課程とは別に、音楽科と美術科を総合的に扱った内容が「芸術課程」と

して示される等、総合芸術教育の実践が目指されている。一方、近年アジア各国では教科の統廃合が進んでおり、台湾では2001年に音楽科と美術科が統合され、教育課程も音楽科と美術科とを総合・統合的に扱った内容で記されている。

このように音楽科と美術科の関連性を重要視したり、また教科の統廃合によって、音楽科と美術科の内容を総合・統合的に示している国々がある。そこで、本論ではアメリカ、ドイツ、台湾、中国を取り上げ、各国における総合芸術教育の教育課程及び教科書について把握するとともに、この4カ国と、前稿^{1) 2)}において調査した日本の取り組みとを比較し、今後の日本における総合芸術教育の展望を明らかにすることにした。なお、本研究は、音楽科と図画工作科の統廃合を推進するものではなく、あくまでも既存の教科学習を行いながら、同時に総合芸術教育（音楽領域と造形領域を関連付けた学習）を段階的に行うことができるプログラム構築を目指すための基礎的調査にあたるものである。

各国によって、教科の呼び方が異なるが、本論では音楽科にあたる教科を「音楽科」、図画工作科にあたる教科を「美術科」、さらに音楽科と美術科を総合的に扱った教育内容を「総合芸術教育」

(*いのうえともこ 保育科講師 音楽教育)

と呼称することとする。

における総合芸術教育の内容を表1のように整理した。この表を基に、詳細を述べていくこととする。

2. 各国における総合芸術教育の実際

まず、アメリカ、ドイツ、中国、台湾、日本に

表1) 諸外国の小学校における総合芸術教育の取り組み

	アメリカ	アメリカ (オハイオ州)	ドイツ (バイエルン州)	台湾	中国	日本
教育課程の基準に関わる法令	全米芸術教育標準	教学内容標準	バイエルン小学校用の教授プラン	97年國民中小學九年一貫課程綱要	義務教育課程設置実験法案	学習指導要領
施行年	1994年	2003年	2000年	2011年	2001年	2008年
1 対応する教科等の名称	「音楽」「美術」芸術分野はダンス、音楽、舞台芸術、美術の4領域で構成。	「音楽」「美術」芸術分野はダンス、音楽、舞台芸術、美術の4領域で構成。	「音楽教育」「美術教育」	「生活」「芸術と人文」音楽、美術、表演芸術が統合的に扱われている。	「音楽」「美術」	「音楽」「図画工作」「美術」
2 教育課程上の位置づけ (1)学年	(1)幼稚園-12学年	(1)幼稚園-12学年	(1)初等(1-4学年)中等(5-10学年)	「生活」(1-2年)「芸術と人文」(3-9年)	1-12学年	「音楽」(小学1-高校3年)「図画工作」(小学校1-6年)・「美術」(中学・高校)
3 構成 (1)示されている項目 (2)区分	(1)教科内の領域別目標は、「内容標準」と「達成標準」で示されている。 (2)「内容標準」は音楽9項目、美術6項目、「達成標準」は、3段階(幼稚園-4年、5-8年、9-12年)で示されている。	(1)教科内の領域別目標は、「内容標準」と「達成標準」で示されている。 (2)「内容標準」は音楽と美術ともに5領域、「達成標準」は、各学年毎に示されている。	(1)各教科、領域別に学習内容が示されている。 (2)学習内容は、各学年別に、音楽教育が4領域、美術教育が6領域で示されている。	(1)音楽、美術、表演芸術を共通とする①基本理念、②課程目標、③段階能力指標、④段階能力指標と10大基本能力の関係、⑤実施要点、⑥付録-教材内容で構成。 (2)「②課程目標」は3項目、「③段階能力指標」は課程目標の3項目を基準とする。⑥付録-教材内容は4項目別に示されている。段階は、4段階(1-2、3-4、5-6、7-9学年)。	(1)音楽課程、美術課程、芸術課程のそれぞれが、①前言、②課程目標、③内容標準、④実施提案で構成される。 (2)音楽課程は4領域、美術課程は4領域で示される。段階は、音楽課程と芸術課程が3段階(1-2、3-6、7-9学年)、美術課程が4段階(1-2、3-4、5-6、7-9学年)。	(1)音楽科と図画工作科とともに、①総説、②教科の目標及び内容、③各学年の目標及び内容、④指導計画の作成と内容の取扱い、で構成されている。 (2)音楽科と図画工作科とともに2領域で構成されている。目標や内容は、各教科ともに、5段階(1-2、3-4、5-6、中1、中2-3)で示されている。
4 内容 (1)内容の区分 (2)内容及び配列の特色 (3)その他、内容の特色	(1)内容標準 ●音楽 ①歌唱 ②器楽 ③即興 ④作曲と編曲 ⑤読譜と記譜 ⑥鑑賞 ⑦評価 ⑧音楽と他の芸術、芸術以外の教科との関連性 ⑨音楽と歴史・文化との関連性	(1)内容標準 ●音楽 ①歴史的、文化的、社会的背景 ②創造的な表現とコミュニケーション ③分析と応答 ④芸術や美的な影響の価値付け ⑤連携、関連と応用	(1)領域(1~4学年) ●音楽教育 ①音楽を演奏する ②音楽を創作する ③音楽を聴く ④音楽を転換し、創作する	(1)内容標準 ●芸術と人文 ・課程目標 ①探索と表現 ②審美と理解 ③実践と応用 ・十大基本能力	(1)内容標準 ●音楽課程 ①感受と鑑賞 ②表現 ③創作 ④音楽と関連文化	(1)領域 ●音楽科 ・表現(歌唱・器楽・音楽づくり) ・鑑賞 ・共通事項

	アメリカ	アメリカ (オハイオ州)	ドイツ (バイエルン州)	台湾	中国	日本
	<p>●美術</p> <p>①材料、技法、過程の理解と応用</p> <p>②構成と機能に関する知識の使用</p> <p>③主題、象徴、構想の選択と評価</p> <p>④歴史・文化と美術</p> <p>⑤鑑賞と評価</p> <p>⑥美術と他教科の関連性</p> <p>(2)上記の内容標準が各領域、3段階(幼-4年、5-8年、9-12年)で目標、内容、評価別に示される。</p> <p>(3)幼稚園から12年生まで、共通の領域や事項が用いられ、一貫性がある。</p>	<p>●美術</p> <p>①歴史的、文化的、社会的背景</p> <p>②創造的な表現とコミュニケーション</p> <p>③分析と応答</p> <p>④芸術や美的な影響の価値付け</p> <p>⑤連携、関連と応用</p> <p>(2)上記の内容標準が各領域、学年別で示されている。さらに、各領域は到達度項目別に、2～5項目に区分されている。</p> <p>(3)幼稚園から12年生まで、共通の領域や事項が用いられ、一貫性がある。</p>	<p>●美術教育</p> <p>①芸術家としての自然</p> <p>②世界のデザイナーの人々</p> <p>③私と私の仲間</p> <p>④メディアの画像</p> <p>⑤イメージの世界</p> <p>⑥芸術の世界</p> <p>(2)上記の領域ごとに、学年別の学習内容が記されている。</p> <p>(3)各学習内容には、他教科のどの学習内容と関連しているのかが記されている。</p>	<p>・付録一教材内容(領域別)</p> <p>①表現試探</p> <p>②基本概念</p> <p>③芸術と歴史文化</p> <p>④芸術と生活</p> <p>(2)音楽、美術、表演芸術の3領域が統合され、総括した目標が設定されている。内容も3領域の関連が図られている。</p> <p>(3)各領域の学習は、3つの芸術領域が一体となって行われる。また、9年間のカリキュラムに一貫性がある。</p>	<p>●美術課程</p> <p>①造形・表現</p> <p>②設計・応用</p> <p>③鑑賞・評述</p> <p>④総合・探索</p> <p>●芸術課程</p> <p>①芸術と生活</p> <p>②芸術と情感</p> <p>③芸術と文化</p> <p>④芸術と科学</p> <p>(2)「音楽課程」、「美術課程」とは別に、音楽、美術、演劇、舞踊、映像等の芸術を幅広く総合的に学習することが目指されている「芸術課程」が設定されている。</p> <p>(3)9年間のカリキュラムに一貫性がある。</p>	<p>●図画工作科</p> <p>・表現(①材料を基に造形遊びをする活動、②表したいことを絵や立体、工作に表す活動)</p> <p>・鑑賞</p> <p>・共通事項</p> <p>(2)表現及び鑑賞の各活動を通して、共通に必要な資質や能力が、「共通事項」として示されている。</p>
5 総合芸術教育の取り扱い	<p>・「内容標準」に、他教科との関連性を示す領域がある。そこでは、諸芸術との関連性と他教科との関連性を示す項目に分けられ、具体的な内容が示されている。主に、他の芸術形式との共通点や相違点に気づいたり、理解したりすることが目的となっている。</p>	<p>・「内容標準」に「連携、関連と応用」がある。さらに「芸術教科と他芸術との関連性」、「芸術教科と他教科との関連性」、「芸術と生活及び文化の関連性」等に整理されている。主な目的は他の芸術との共通点や相違点に気づき、理解することである。</p>	<p>・各学習内容には、他教科のどの学習内容と関連しているかが示され、その中に他の芸術教科との関連性も含まれている。</p> <p>・教科を関連させることによって、他教科の学習に活かしたり、理解をさらに深めることができるとしている。</p>	<p>・2001年から音楽、美術、表演芸術が統合され、各領域の特性や内容が希薄化したため、2011年改訂により、各領域の特性や相違点を基にした芸術領域の統合が求められた。領域別の学習内容を段階ごとに示した「付録一教材内容」も付記された。</p>	<p>・音楽課程標準の「④音楽と関連文化」、美術課程標準の「④総合と探索」に、他の芸術領域との関連性に関する記述がある。また、音楽課程、美術課程とは別に、芸術課程が設定され、芸術学科の総合性と関連性を学習することが目指されている。</p>	<p>・音楽科学習指導要領中には、絵や造形、また図形譜などを用いた活動について記載されている。図画工作科学習指導要領中にも、音などを用いた行為や活動が記載されている。</p>
6 教科書上における総合芸術教育の取り扱い	<p>・音楽科教科書『Spotlight on Music』の指導書では、各Lessonの中で、他の芸術教科及び他教科と関連性をもつ教材がある場合に、その教材例が紹介されている。美術科教科書『Art Connections』の指導書では、全Unit、全Lessonにおいて、音楽、ダンス、舞台芸術と関連のある教材例が紹介されている。特に、音楽科との関連性として、同出版社『Spotlight on Music』との連携が取られている。そして、教材内容についてであるが、音楽科は、要素間の関連性だけでなく、音楽に関連する絵画作品を通して、作家、また絵画の見方や技法を知ったり、造形活動を行ったり、同地域や同時代の美術について学んだり等、多岐にわたっている。美術科は、造形要素と音楽要素の関連性を用いて、共通要素や関連する要素を学習することを旨とした教材が多い。</p>	<p>・音楽科『Fidelio』と美術科『Farbe, Form und Fantasie』ともに、他の芸術教科との関連教材が掲載されている。音楽科では、歌詞に合う絵を描いたり、絵や写真から音楽を創作したり等、多種多様である。美術科では、共通テーマを基にした教材が見られる。また、美術科指導書には、他教科と関連性をもつ単元名が教科別に整理されている。</p>	<p>・旧教育課程中に出版された教科書によると、1、2学年では『生活』、3-6学年は『芸術と人文』の中で、音楽と美術の学習が取り入れられている。『生活』では、テーマを中心に音楽領域及び造形領域の活動を取り入れた教材がほとんどである。3-6学年では、様々なタイプの総合芸術教材が取り入れられている。</p>	<p>・音楽科教科書『音楽』、美術科教科書『美術』ともに、音楽領域と造形領域を横断した教材が掲載されている。手作り楽器、絵のイメージから音楽を作ったり、音楽のイメージを絵にする教材、絵画作品と音楽作品との関連を学習する教材、舞台芸術に関する教材等、教材の内容は多岐にわたる。</p>	<p>・近年、各出版社の教科書ともに、音楽領域と造形領域を横断した教材が増えてきている。しかし、教科領域を横断する上での目的や意義、及び手順等に関する具体的な記載はあまり見られない。</p>	

(1) アメリカにおける総合芸術教育

①現在のアメリカにおける芸術教育

アメリカでは「目標2000：アメリカ教育法」(1994)により各教科に全米共通の基準が示され、同年芸術教科には『全米芸術教育標準』が作成された。『全米芸術教育標準』は、舞踊、舞台芸術、音楽、美術で構成されているが、この4領域は連携が取られ、共通の形式によって示されている。また序文には、芸術教科間または芸術教科と他教科を関連させるための2つの方法として、「関連」(主に2つまたはそれ以上の芸術様式を、文章化、解釈、分析することを通して、比較したり対照化したりする方法)と、「統合」(相互に強化したり、根底にあるものを明らかにするために、2つあるいはそれ以上の領域を用いる方法)が紹介されている³⁾。ここからも芸術領域の関連性を重要視していることが分かる。

そして、「内容標準」(獲得すべき知識及び技能)が、音楽科は9項目、美術科は6項目で構成されるが、両教科ともに他教科との関連性を示す項目がある。音楽科では「⑧音楽と他の芸術、芸術以外の教科との関連性」⁴⁾、美術科では「⑥美術と他教科の関連性」⁵⁾、がこの内容に該当する。さらにこれらの項目を基に、段階別の「達成標準」(各段階の最終学年までに獲得され、それらの知識及び技能を使いこなす能力)が示されている。

音楽科と他の芸術教科との関連性については、幼稚園～4学年では、様々な芸術に共通する用語の意味、類似点と相違点が分かること、そして5～8学年では二つ以上の芸術を取り上げ、出来事、場面、感情、考えを表現する際にはどのように各芸術の特徴的な素材が用いられているのかを比較することへと展開されている。一方、美術科と他の芸術教科との関連性については、幼稚園～4学年では類似点や相違点を理解すること、5～8学年では同じ主題、歴史的な区分または文化的背景をもつ様々な芸術形式の作品の特徴を比較することが達成標準となっている。

②オハイオ州における総合芸術教育

アメリカの各州は『全米芸術教育標準』を基に

カリキュラムを公表しているが、本論では、総合芸術教育を重視し、芸術教科間の関連性に関する内容標準や達成標準を提示しているオハイオ州を取り上げる⁶⁾。

オハイオ州の教育課程は『教学内容標準』の中で示され、芸術教科は舞踊、舞台芸術、音楽、美術の領域別に「内容標準」と「達成標準」が記されている。内容標準は5項目あり、「⑤連携、関連と応用」において、芸術教科とその他の芸術領域や他教科との関連性に関する内容が記されている。音楽科と美術科ともに「⑤連携、関連と応用」では、主に「芸術教科と他の芸術との関連性」、「芸術教科と他教科との関連性」、「芸術と生活及び文化の関連性」、「芸術と職業」に関する観点を中心に構成されている。表2、3は音楽科及び美術科の「連携、関連と応用」の中から、「芸術教科と他の芸術との関連性」の内容標準を抽出し、整理したものであるが、各学年で習得すべき内容が明確に示されていることが分かる。

③アメリカの教科書教材

アメリカで用いられている音楽科教科書『Spotlight on Music』の指導書では、全Lessonではないが、各Lessonの中で他の芸術教科又は他教科と関連する教材が紹介されている。一方、美術科教科書『Art Connections』(指導書)では、全Unit、全Lessonにおいて、音楽、ダンス、舞台芸術と関連する教材例が紹介され、特に音楽科は同出版社『Spotlight on Music』との連携が取られている。音楽科では、要素間の関連性だけでなく、音楽に関連する絵画作品を通して、作家、絵画の見方や技法を知ったり、造形活動を行ったり、同地域や同時代の美術について学んだりする活動等、様々な美術科との関連教材が挙げられている。例えば、2年「Pitches in Asia」では、アヒルをイメージした音楽に関連して、安藤広重の絵画《2羽の首を振る鴨》が紹介されている⁷⁾。そこでは、安藤広重と木版画の技法について学習し、最後にはジャガイモを用いてスタンプをつくる活動になっている。一方、美術科教科書では、造形要素と音楽要素の関連性を用いて、

表2) 音楽科『教学内容標準』

(⑤連携、関連と応用)より抜粋

1年	1. ダンス、演劇、美術と一緒に音楽を用いたり、その中の音を見つけたりする。 2. 芸術の中の共通用語を理解する(例:パターン、テクスチュア)。
2年	1. ダンス、演劇、美術を用いて音楽に反応する。 2. 音楽、ダンス、演劇、美術を含む芸術の共通点や相違点を認識する。
3年	1. ダンス、演劇、美術を通して、音楽を解釈する。 2. 音楽やその他の芸術形式の中における共通要素(例:形式、リズム)の使われ方について理解する。
4年	1. ダンス、演劇、美術を通して、音楽を解釈する。 2. 音楽やその他の芸術形式の中における共通要素(例:形式、リズム)の使われ方について理解する。
5年	1. ダンス、演劇、美術を通して音楽を解釈する。 2. 音楽やその他の芸術形式の中で共通している要素の使われ方を理解し、同じ要素が使われている各芸術形式では、どのように構想や感情が表現されているかを比較する。 3. 様々な芸術形式と関連している基本的な用語(例:テクスチュア、色、形式、動き)の意味を明確にし、音楽活動で説明する時に用いる。
6年	1. 音楽と他の芸術の関連方法について説明する。 2. 音楽やその他の芸術において、同じような出来事、状況、感情、構想を表現する際に、各芸術の特徴的な素材(例:音楽の中の音、ダンスの中の動き)がどのように用いられているかを比較する。 3. 音楽表現を考えていく際に、他の芸術形式を用いる。

表3) 美術科『教学内容標準』

(⑤連携、関連と応用)より抜粋

1年	1. 美術、音楽、動きの間のつながりをつくること。 3. 芸術間にある関係性を示す(劇の衣装や場面をつくる)。
2年	1. 美術の素材を使って、歌や詩、劇、物語から得たアイデアを表現する。
3年	1. 動きや音楽を通して、お気に入りの絵画を解釈する。
4年	1. 芸術教科を横断している共通テーマ、主題、アイデアを理解したり、説明したりする。 2. 1つまたは複数の芸術教科で使われている要素や原理(例:色、調和、変化、対照)が、美術ではどのように用いられているかを説明する。
5年	1. 音楽、演劇、ダンスの中で美術がどのように用いられているかを比較、対照化し、例を挙げる。
6年	1. 19世紀のある10年の間に起きた主要な出来事を表現するために、仲間と共同作業を行う。

共通要素や関連する要素を学習する教材が多く見られる。例えば、3年「Expressive Lines」では、音楽科との関連性として、『My favorite Thing』を聴きながら、この曲に合う線(縦線、

横線、ジグザグ線、曲線等)を描き、美術と音楽における線の概念を比較する活動が挙げられている⁸⁾。

(2) ドイツにおける総合芸術教育

①現在のドイツにおける芸術教育

ドイツでは、1960年代～70年代にかけて行われていた科学技術志向の教育から、1980年頃に「教育の人間化」を目指した教育に移行され、発達段階に応じた教育内容への適正化や、教育内容の量的縮小化が行われた。そして、直観や体験との結びつきを重視した授業、諸教科横断的な授業の充実等が取り組まれた。初等教育の教育課程に関する内容は、州ごとに設定されているが、本論では、教授プランに音楽科と美術科の関連性が多く見られるバイエルン州を取り上げる。

②バイエルン州における教授プラン

バイエルン州の小学校における教授プランでは、他教科との関連を示す領域及び内容に、科目名とその項目番号が記されている。例えば、1年「音楽を転換し、創作する」は、音楽に合わせたり、また音楽を用いずに体を動かしながら、様々な動きを見つめる活動(音楽科)が、美術科における、相手の顔の表情や体の動きからメッセージを読み取ったり、様々な動きから物語を創作したりする活動(美術科)と関連付けられている⁹⁾。

各学年を具体的に見てみると、小学校4学年中3学年においては、劇場面の音楽創作や衣装作り、舞台装置作りを行う活動が組まれている。学年間の系統性については、イメージを音楽即興及び創作する活動として、1年生では声や簡単な打楽器、身の回りのものを使って、様々な音色の可能性を探りながら音にして楽しむ活動、そして拍子や調性、特定のテーマをもたない音遊び、3年生では、ポスターや広告をつくって、それに拍子や調性、特定のテーマをもたない音楽を創作する活動、4年生では映像に音楽を付ける活動へと展開されている。楽器製作に関しては、美術科の2年生では、紙と糊またはプラスチック材料を用いた楽器作り、3年生では、木を用いた楽器作り、4年生では金

属を用いた楽器作りへと、学年間に素材の違いによる発展性が見られる。音楽科の方では、2年生は身の回りのものを用いた簡単な楽器作り、3年生では、ガラガラ、ドラム、ラッパ等、奏法の違いに視点を置いた楽器作りとなっている。

今回取り上げたのは一部であるが、このようにバイエルン州の教授プランでは他教科との関連性が明確に示され、また発達段階に応じて学習内容が深まるように設定されている。

③バイエルン州における教科書教材

両教科の教科書には関連する他の芸術教科の活動内容やその手順が掲載されている。音楽科教科書では、歌詞に合う絵を描いたり、絵や写真から音や音楽を創作したり、楽器を作ったり等、多種多様な教材が掲載されている。4年生の単元「雨のメロディ」では、雨をモチーフとした音楽と、その音楽をモチーフとして描かれた絵を鑑賞するとともに、音楽を参考に雨上がりの場面の絵を描く活動が紹介されている¹⁰⁾。美術科教科書『Farbe, Form und Fantasie』(指導書)では、他教科と関連性をもつ単元名が教科別に整理され掲載されている。共通テーマを用いて関連性をもたせ、学習した素材を用いて音を出したり、学習したテーマを楽器で即興演奏したりする教材がある。例えば、1・2年生の「虹」をテーマとした学習では、虹が描かれている絵画作品を鑑賞したり、ホース等を使って実際に虹をつくったりする活動が示され、「木琴で虹のメロディを演奏してみよう」という活動も記されている¹¹⁾。アメリカの教科書に多く見られた音楽と造形の共通点や相違点を学ぶ活動は見られないが、例えば美術科の学習であれば造形活動を通して、関連する音楽活動、身体活動も総合的に学ぶ形態が多い。

(3) 台湾における総合芸術教育

①「92年國民中小學九年一貫課程綱要」

台湾では、2001年の教育課程改訂「92年國民中小學九年一貫課程綱要」において、小学校では11教科から7領域へと再編され、音楽と美術は「芸術と人文」に統合された。これは、知識偏重や教

科中心カリキュラム等への反省によるもので、教科数を減らし統合的な教育課程へ、また生活経験を中心としたカリキュラムへと変更された。授業時数も領域毎に示され、各学校が弾力的に決定できるようになった。小学3～6年の「芸術と人文」は、従来の音楽と美術に舞台芸術を加えた内容をもつ。小学1、2年生は「社会」、「芸術と人文」、「自然と生活科学」が「生活」の領域に統合されている。目標も、2学年毎に、「探求と表現」、「審美と理解」、「実践と応用」の3項目で示され、例えば3、4年生の「探求と表現」では、「視覚、聴覚、身体感覚の創作要素を運用して発表活動を行い、自分の感情や考えを表現する」というように美術、音楽、身体活動の内容が総括された目標となった。

②「97年國民中小學九年一貫課程綱要

(100学年度実施)」

2011年からは「97年國民中小學九年一貫課程綱要(100学年度実施)」が施行され、新しい教育課程が随時実施されている。この綱要では、特に21世紀を生き抜くための競争力や創造力が謳われた。「芸術と人文」においても、教育課程が再度見直され、主に芸術の統合的な取り扱いについて修正された。旧課程では美術、音楽と表演芸術が統合され、各教科内容が希薄化してしまったことから、各教科の特質や相違点が重要視されることとなった。

本論では、「97年國民中小學九年一貫課程綱要藝術與人文學習領域修正草案對照表」の「(5)実施要点」と「(6)付録—教材内容」の中から芸術の総合的な取り扱いに関する部分を述べる。表4の「新」は、新課程「97年國民中小學九年一貫課程綱要(100学年度実施)」を指し、下線部は追記された部分、または修正された部分である。「旧」は、旧課程「92年國民中小學九年一貫課程綱要」を指す。下線部は、修正以前の部分である。

まず、「1. 課程設計」の新課程に「美術、音楽と表演芸術の個々の特質に基づいて授業を行う」が付加され、旧課程からは大単元及び統合テーマの学習に関する文が削除された。美術、音楽と表

表 4) 「97年國民中小學九年一貫課程綱要藝術與人文學習領域修正草案對照表」¹²⁾ より抜粋

<p>1. 課程設計 (2)</p> <p>新) 美術、音楽と表演芸術の個々の特質に基づいて授業を行う。あるいは、美術、音楽と表演芸術を統合の原則に基づいて行う。統合の原則は、以下のように運用することができる。共通の美学概念、共通のテーマ、共通のプロセス、共通の目的、補完的な関係、段階的プロセス等、知識と<u>美育意義</u>の学習単元を<u>関連</u>させる。さらに、「探索と表現、審美と理解、実践と応用」の<u>融合課程方法</u>も統合の原則とみなす。</p> <p>旧) 各学校が学習時間数の基本原則の下、領域を横断した学習を行い、学科及び時間数を弾力的に調整すること。大単元あるいは統合テーマを中心として実施する。学習活動が2つ以上の学習領域になる時は、その学習時間数を個別にし、関連学習領域を記入する。・・・(全文削除)</p> <p>2. 教材選択 (1)</p> <p>新) 教材範囲：本学習領域の教材は、美術・音楽・表演芸術またその他の総合形式の芸術等を鑑賞、創作することによって個々の特質と総合性を学習することを含む。また芸術と歴史、文化的関係を知ること、批評、反省と価値付けすること、また生活の中の芸術で実践と応用を行ったり、その他の学科等の範囲と関連させる。</p> <p>旧) 教材内容と範囲：芸術と人文領域の教材は、美術・音楽・表演芸術またその他の総合形式の芸術等を鑑賞、創作することを含む。また芸術と歴史、文化的関係を知ること、批評、反省と価値付けすること、また生活の中の芸術で実践と応用を行う。<u>及び</u>その他の学科等の範囲と関連させる。・・・(一部修正)</p> <p>その技能を以下に示す。</p> <p>①美術：メディア、技術とその過程の理解と応用。造形要素・構成をしようするための知識等を含む。 ②音楽：音感、読譜、歌唱、楽器、演奏等を含む。 ③表演芸術：身体と声の表現と<u>芸術発表</u>を含む。 ④その他の総合芸術の<u>基本技能</u>等。・・・(一部修正して(2)へ移行)</p> <p>(2)</p> <p>新) A. 美術：視覚審美の知識、メディア、技術とその過程の理解と応用。造形要素・構成をしようするための知識等を含む。 B. 音楽：音楽知識、音感、読譜、歌唱、楽器演奏、創作、鑑賞等を含む。 C. 表演芸術：表演の知識、声と身体の表現、<u>創作、発表と鑑賞</u>を含む。 D. その他の総合形式の<u>芸術を鑑賞するときの基本技能</u>等。</p> <p>旧) (1)の後半部分。</p> <p>3. 教材選択の原則</p> <p>新) C. 児童が<u>美学</u>の概念と系統的な<u>芸術学習</u>が習得できるように、<u>児童の発達段階に応じた芸術美感教育の特質</u>を把握しておく必要がある。</p> <p>旧) ③ 教材選択の際、児童が<u>統合</u>の概念と系統的な情報が習得できるように、<u>統合の原則</u>を把握しておく必要がある。・・・(一部修正)</p> <p>新) D. 教材を配列するときには、<u>各芸術形式の個別の特質</u>、特にその<u>基本概念、芸術と社会文化、芸術と生活環境の関連性</u>の統合を考慮し、本学習領域は<u>芸術を専門とする教師が児童に学習を指導する必要がある</u>。</p> <p>旧) ④ 教材を選択し、配列する際、<u>内容の適切性、基本技能の順序性、及び各学期の教材の関連性</u>を考慮する必要がある。・・・(一部修正)</p> <p>4. 学習方法 (3) 学習概念方面</p> <p>新) 本学習領域の能力指標は、3つの軸(探索と表現、審美と理解、実践と応用)を強調し、<u>芸術能力を育成することである</u>。教材範囲と内容は、教師が<u>芸術の4つの方面(表現試探、基本概念、芸術と歴史文化、芸術と生活)</u>を運用し、<u>学習を統合する</u>。学習活動の組織と計画によって<u>児童の芸術能力を育成することができる</u>。それゆえこの能力指標の三大軸と教材内容の4つの方面の間を、密接に関連させ、<u>因果関係をもたせる</u>。</p> <p>芸術学習は段階に応じて児童の感受性と興味、能力と経験、<u>生理発展と学習心理</u>を考慮する。第一段階(低学年)自発性と自由な試行、<u>芸術の楽しさ</u>を発見する学習、第二段階(中学年)基本と具体的かつ実用的な概念、<u>芸術の基本知識の習得</u>、第三段階(高学年)具体的な美感概念の応用の強調、第四段階(国中)次第に抽象的概念を育成する。前学年までの芸術課程と学習に関連付ける。</p> <p>旧) 児童の能力、経験と発達段階、前学年までの<u>芸術学習と学習精神</u>に関連付けることを考慮する。第一段階(低学年)自発性と自由な試行と発見、第二段階(中学年)特定の内容、具象的かつ実用的な概念の理解、第三段階(高学年)具象的な美感概念の応用の強調、第四段階(国中)次第に抽象的概念を<u>導入</u>する。(・・・一部修正)</p> <p>(4) 美感態度の育成</p> <p>新) 美的な視覚、聴覚、触覚、運動感覚の感受と知覚、同時に児童の個々の要求の違いを大切にす。そして、<u>審美的態度を育成する</u>。教師独自の<u>芸術の専門性、熱心さ、感性、積極性、人間性、開放的な学習指導態度</u>を児童に大きく影響を与える。児童が学習に困ったとき、<u>適宜指導し、児童が努力し続けるように励ます</u>。各児童の<u>独創性</u>、または<u>独特の表現</u>を尊重し、<u>児童相互の努力を認め、誠実な返答を</u>するようにする。</p> <p>旧) 教師独自の、<u>熱心さ、積極性、開放的な学習指導態度</u>を児童に大きく影響を与える。児童が学習に困ったとき、<u>適宜指導し、児童が努力し続けるように励ます</u>。各児童の<u>独創性</u>、または<u>独特の表現</u>を尊重し、<u>具体的かつ誠実な返答をし、児童の努力を認める</u>。(・・・一部修正)</p>

表5) 第2段階 (小学3～4年生)「芸術と生活」

統合	方面	美術方面	音楽方面	表演芸術方面
芸術と生活	(四) 芸術生活と自分との関係 1. 環境装飾：様々な芸術創作作品を利用し、祭りの雰囲気を出したり、生活環境を装飾したりする（教室、学校を含む）。 2. 生活の美学：生活における様々なメディア、広告、情報（テレビ、コンピューター、ネットワーク等を含む）を観察したり鑑賞したりする。また、生活の中の様々な美的な活動や内容を発見する。 3. 文化と生活：博物館、文化、教育機関に参加したり訪れたりし、様々なお祭り等から都市農村、民族や文化の違いを感受する。そして、記録し、共有する。	(四) 音楽と生活 1. 生活の中の様々なものや音の特性を見つけたり、認識したりする。そして、特に気に入ったものを選び、共有する。例：体から出る音、動物の鳴き声、楽器の演奏姿勢。 2. 様々な音楽演奏を、正しく、また敬意をもって聴く態度を育成する。例：時間を守る、服装、自制、焦点。	(四) 表演芸術と生活 1. 表演芸術活動の計画、自分と他人のアイデアや工夫を共有する。 2. 実際に社会的なパフォーマンス活動に参加する。社会と芸文活動の特質との関連性を理解する。 3. 身の回りの表演芸術活動に関する資料収集と応用。 4. 表演芸術学習の成果と経験。実際に生活の中で実践する。	

演芸術の各教科の本質的な特性や学習内容を強調したこと、各教科の相違点を重視し、その相違点を基にした芸術教科の統合が目指されたことが分かる。また「2. 教材選択」については、新課程により、鑑賞や創作活動を通して、美術、音楽、表演芸術、その他の総合形式の芸術を学習する際の事項に、「個々の特質と総合性」という語が付記され、学習内容が具体化された。ここでは、各芸術の特質を知ることにより、芸術を総合的に捉える力の育成も目指されている。また、今回の改訂で「美感」という語が数多く付記されたが、統合の概念の習得以上に、美学の概念の習得及び美的感覚や感性、人間性の育成が重要視されたことが分かる。「3. 教材選択の原則」も同様のことがいえる。そして、「4. 学習方法」では、新課程の(3)学習概念方面に、学習指標に関する文が付記された。旧課程の3つの目標「探索と表現、審美と理解、実践と応用」の軸を強調すること、さらには新課程において設定された4つの学習項目「表現試探、基本概念、芸術と歴史文化、芸術と生活」の内容を統合的に用いることが指示され、学習内容の具体化が目指された。さらに新課程では「(6)付録一教材内容」が付加され、美術、音楽、表演芸術の3教科に分類し、発達段階別に学習内容が示されることで、各領域の特性と具体的な学習内容が把握できるようになった。本論では、小学校3、4学年の「芸術と生活」のみ記載

する(表5)。

③台湾における教科書教材

台湾では、芸術教科が統廃合されたため、教科書においても1～2学年は『生活』(上・下)、3～6学年は『芸術と人文』(上・下)として、図画工作科と音楽科は総合的に取り扱われている¹³⁾。1、2学年では、「社会」、「芸術と人文」、「自然と生活科学」を統合した「生活」の中で、芸術教育が行われているため、教科書を見ても生活をテーマとした単元の中に様々な領域の活動が取り入れられていることが分かる。音楽領域と造形領域に関する活動は生活テーマに関連した絵を描いたり、歌を歌ったりする活動がほとんどである。例えば、1年生の単元「わたしたちが一緒にいるとき」では、シャボン玉を作ったり、泡を身体で表現したりする活動が見られる。その中に、木の表面を触って、こすり出しをしたり、落ち葉や花で仮面を作ったりする造形活動やシャボン玉の歌を歌ったり、木に耳を当て木の音を聴くといった音楽活動が含まれている。

3年生以降の「芸術と人文」の教育課程では、美術と音楽の他に、表演芸術が含まれているが、教科書を見ると、1、2年生とは異なり、造形要素と音楽要素の関連性を学んだり、舞台芸術について学習したり等、様々なタイプの総合芸術教材が含まれている。例えば、3年生の単元「注意深

く聴こう」では、写真から聞こえてくる音をイメージしたり、単元「反復の美」では、造形要素と音楽要素の関連性についての学習であり、様々な模様が使われているデザインを鑑賞したり、デザインを考えたりする活動、そして音楽の中の反復を見つけたりする活動が示されている。また5年生の単元「わたしたちの物語」では、プロコフィエフ作曲《ピーターと狼》等の音楽物語、また絵本等の物語を鑑賞する活動、そして好きな物語を絵本にしたり、劇にして発表する活動が見られる。

しかし、今回対象とした教科書は、前教育課程の「92年国民小中学九年一貫課程綱要」に基づいて作成された教科書であるため、新教育課程に基づいた教科書において、どのような改訂が行われたのか再調査する必要があるだろう。

(4) 中国における総合芸術教育

①中国における教育課程

中国では、2001年「義務教育課程設置実験法案」により、教科の再編・統合が進められ、「美術」及び「音楽」も「芸術」として統合された。しかし、「美術」と「音楽」の教科名は統合されたものの、標準課程は美術、音楽それぞれ明示されており、台湾のような教科内容の統合ではなく、芸術教科の教科内容及び時間数が弾力的に扱えるようになったことを意味する。しかし、「音楽課程標準」¹⁴⁾と「美術課程標準」¹⁵⁾の中では、教科間の関連性についての記載があり、総合芸術教育が非常に重要視されている。また、この改訂では、美術と音楽の各標準課程とは別に「芸術課程標準」¹⁶⁾が新設された。この「芸術課程標準」は、美術、音楽、舞踊、映像、書道等の様々な芸術を総合的に取り扱うための教育課程である。

まず、「音楽課程標準」は、「①感受と鑑賞」、

「②表現」、「③創造」、「④音楽と関連文化」の4領域で構成され、総合芸術教育は「④音楽と関連文化」中の項目「音楽と姉妹芸術」の中で記述されている。1、2学年では、色彩やパフォーマンスを用いて、音楽との類似点や相違点を知る活動、3～6年生では、芝居、舞踊、映画等の中での音楽の役割を考える活動となっている(表6)。一方、「美術課程標準」中の「④総合・探究」が、美術の各学習領域の総合化、美術と他教科との総合化、美術と社会との総合化を意味し、この中で総合芸術教育に関する内容も取り扱われている。主に物語等の話を基に、造形活動(風景や衣装づくり、楽器づくり等)、音楽活動(楽器づくりや歌唱等)、身体表現を関連付けるといふ、いわゆる総合芸術と呼ばれる活動が取り入れられている(表7)。音楽科と美術科とで、総合芸術教育の内容は、多少異なっており、音楽科では、音楽と他の芸術表現形式との類似性や相違性を考えたり、各芸術形式の特性を認識する活動、美術科では、いわゆる総合芸術に関する活動が目指されている。

次に「芸術課程標準」についてであるが、序文では現代社会と芸術との関係性を強調し、メディア社会に生きる人間として芸術教育で培う感受性、想像力や創造性が重要であるとしている。また現代社会では、様々なメディアを審美的に鑑賞する能力、造り出す能力が必要とされ、音楽と美術の2領域にとどまらず、演劇、舞踊、映画等を含めたり、生活と結び付いた幅広い芸術学習が目指されている。さらに、この芸術課程は芸術教育だけではなく、感受性や想像力及び創造力を豊かにし、全人教育になるとしている。芸術課程標準の特質には、①人文性、②総合性、③創造性、④愉悦性、⑤古典性が挙げられ、「②総合性」では、芸術学科の知識、創作技能、文化背景、様式や流派等の

表6) 音楽科「音楽課程標準」の内容

第1・2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な動きを用いて、音楽リズムに合わせることができる。 ・簡単な表現動作を用いて、音楽情緒を表現することができる。 ・色彩あるいはパフォーマンスを用いて、音楽との類似点、相違点を表現する。
第3～6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・芝居、舞踊等の芸術の表現形式に触れ、理解する。そして、音楽がその中でどのような役割をしているかを認識する。 ・映画と関連させ、音楽がその中でどのような役割をしているかを簡単に描述する。

表7) 美術科「美術課程標準」の内容

第1・2学年	教学活動の建議	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、音楽等の課程内容と関連させ、美術創作を行う。表現方法を話し合い、美術作品展の会場を飾り付けしたり、教室、或いは学校環境を美化したりする。 ・童話、故事成語あるいはある一場面を基に、簡単な人形、楽器、影絵等の作品を考え、製作する。合わせて、舞踊、童話劇、影絵芝居を演じ、集団の誕生日祝い等の活動を開催する。
	評論建議	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組み、国語、音楽等の学科内容を関連させ、材料をうまく利用し、創造的に進めることができる。 ・自分の創作意図や他人の作品に対して意見を述べるができる。 ・活動の準備をしたり、活動が終わった後には、整理整頓ができる。 ・仲間と協力することができる。
第3・4学年	教学活動の建議	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、音楽等の学科内容と関連させ、美術創作を行う。美術作品展の会場を飾り付けしたり、教室を美化したりする。 ・子どもの歌、童話を基に、衣装、仮面等を設計したり、製作したりする。合わせて舞踊、童話劇等も演ずる。
	評論建議	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組み、国語、音楽等の学科内容を関連させ、材料をうまく利用し、創造的に進めることができる。 ・自分の感じたことを表現することができる。 ・活動が終わった後、整理整頓ができる。 ・仲間と協力することができる。
第5・6学年	教学活動の建議	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな脚本を準備し、衣装や、影絵、ふさわしい風景、小道具を製作し、演ずる。
	評論建議	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組み、美術とその他の課程の知識を関連させ、独自の表現を行うことができる。 ・製作中、積極的に取り組んでいる。 ・討論をして、自分の意見を言うことができる。 ・仲間と協力して共同作品をつくることができる。

表8) (一) 芸術と生活

生活は芸術の源であり、児童は芸術と日常生活との関連性を通して、自己の芸術体験と感受を豊かにし、芸術を感じる能力を向上させる。そして芸術の視点から生活を観察し、芸術の方式を用いて生活を表現し、生活を美化し、生活の質を高める。			
		内容標準	活動提案
第一段階 (1・2学年)	1-1-1	自然環境と社会生活に関心を持ち、その中で用いられている芸術要素を見分ける。	自然環境、社会生活の中の芸術要素(例:点、線、色彩、リズム、音高、音色等)を聴いたり、見たりして判別する。その中の簡単な芸術要素を用いて、自分の思いや感じたことを表現する。
	1-1-2	身の回りの芸術を見つけ、その芸術から社会や自然について考える。	討論する。例えば、私たちはどこで音楽を聴くことができるか。絵画、彫塑、演劇、舞踊をどこで見ることができるか。なぜ芸術はここで表現されるのか。そして、初めて音楽会に行ったり、あるいは展覧会に行ったりしたとき、生活や自然に対してどんな気持ちがあるか等話し合い、他の人と意見を共有する。
	1-1-3	自分の生活経験と芸術経験を相互に関連させ、芸術を用いて、身の回りの生活環境を美化する。	自分の生活と自然現象における感情や体験と、芸術家がそれらに対して表現したものを関連付けたり(例:天気に対する自己体験と天気を描写した童話、絵画、舞踊とを関連付ける)、自分のお気に入りの芸術方式を用いて自分の体験や感じたことを表現したりする。
第二段階 (3・4・5・6学年)	2-1-1	自然環境と社会生活の中から芸術要素とその組み合わせを見つけ、感知できる。	自分が見た自然現象と経験した生活情景を思い出し、例えば、聞いた機械の音、見た様々な建築物、木の葉の形等から、芸術要素及びその組み合わせを見つける。
	2-1-2	社会生活と自然情景を表現した芸術を感じ取り、生活の面白さを体験する。	郷土芸術を見たり、聴いたりする。例えば、切り絵、粘土彫刻、民謡、童謡、伝統的な音楽等を鑑賞し、自然あるいは生活情景を判別し、それらに対する新しい見方と考えを獲得する。
	2-1-3	生活と芸術の相互の関連性の中で、芸術を用いて、生活を美化し表現する能力を獲得する。	《采茶舞》と《孔雀舞》等、生活と自然に密着した作品を鑑賞し、芸術の再現と日常生活との類似点及び相違点を討論する。そして、自分の生活と芸術に対する理解を芸術成長記録帳に記述し、自分のお気に入りの芸術方式で表現する。

内容を総合的に扱うだけでなく、音楽、美術、舞踊、メディア等、多様な芸術学科の総合、及び芸術学科とその他の学科の総合でもあること、芸術課程の目標、構造、内容は、総合的に探究された

新しい課程であると述べられている。また、芸術課程標準の基本理念では、人間の幼少期と人類が誕生した時期には、話す、歌う、踊る、描く等の芸術活動を常に自然と融合かつ一体的に行われて

表9) 児童の芸術能力発展水準参照表 第2段階(3~6年)

音楽	美術	演劇と舞踊
<ul style="list-style-type: none"> ・自然界と生活の中で快く聞こえてきた様々な音の響きを模倣したり、探索することに関心をもつ。 ・音楽作品を専門的に鑑賞し、様々な情緒を感じたり、分別したりする。また、自分の感じたことを簡単な言葉を用いて述べたり、体を用いて様々な情緒を表現したりする。 ・美的な音楽作品を聴くことに関心をもつ。よく見る民族楽器と西洋楽器を認識し、リズム、拍子、旋律、速度、強弱の識別を通じて、作品の表現の特徴を感受及び理解する。 ・音楽の主題、楽句、楽節の変化を感じ取り、鑑賞能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大自然と人工物を観察することに興味をもち、その形、色、質感の特徴を感知し、簡単な言葉を用いて所見を記述したり、自分の感情を表現したりすることができる。 ・美術作品や美術展の鑑賞を親しみ、美術活動に積極的に参加する。題材や芸術様式を次第に拡大し、自分のアイデアを表現する。 ・1つまたは2つの地域の美術に関心をもつ。地域の風景写真を収集したり、撮影したりすることに興味をもち、誇りに思うところを簡単に紹介することができる。 ・様々な造形材料に触れ、潜在的に美しさを感じ取る。人類が発見したり使ってきたものが非常に創造的であることを認識する。このような創造的な活動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく見るテレビドラマ、舞踊、バラエティ番組を、選択する。自分の好きな番組、劇場の演出や大衆の文芸演出を鑑賞することに興味をもつ。 ・舞踊公演を鑑賞し、主要な踊り方を区別することができる。舞踊作品についての表現内容と情感を感じ取る。中国の様々な民族舞踊に興味をもつ。 ・演劇の演出を見て、人間関係を理解することができる。また演劇とオペラの区別ができ、さらに興味を膨らませる。

いたこと、また中国の伝統音楽、舞踊、演劇、ダンス、西洋のオペラ、舞踊等は、芸術活動の中に様々な芸術能力が相互に介在していることから、音楽、美術、演劇、舞踊、映像等は学科相互に連携し補充できる芸術学習環境にすべきであると謳っている。

「芸術課程標準」の「(2) 課程目標」では、総目標に「芸術能力と人文素養の統合と発展」と掲げられ、部分目標では「芸術と生活」、「芸術と情感」、「芸術と文化」、「芸術と科学」の4項目毎に発達段階に応じた具体的な目標が立てられている。ここでは「芸術と生活」のみを掲載する(表8)。

また、巻末には「児童の芸術能力発展水準参照表」が掲載され、「音楽」、「美術」、「演劇・舞踊」の領域別の目標が記されている。総合的な芸術教育を実施するにあたって、各教科の特質や共通点、相違点、また学習内容が明確にできるように配慮されている。本論では第2段階の「感受と鑑賞」の部分のみ掲載している(表9)。

②中国の教科書教材

音楽科教科書『音楽』は、学年別に見ると、1~3学年で造形領域と関連のある教材が掲載されていることが多い。最も多く見られたのが、図形譜を用いた教材である。どの学年においても、旋律の動きを表した図形譜を見ながら音楽鑑賞をす

る場合に用いられていた。5学年では音楽を鑑賞しながら旋律の動きを線で表し、音楽の起伏を感じる教材も見られる¹⁷⁾。また、絵に合う音や音楽を創作したり、音楽教材に関連する絵画を音楽教材と関連させて鑑賞したりする教材も見られた。

中国の教科書『美術』における総合芸術教材は、3、5、6学年の教科書中に5題材見られた。例えば、5年生「舞台背景」¹⁸⁾では、京劇や歌劇等の様々な舞台背景及び舞台を鑑賞した後、クラスや班で舞台背景をデザイン、製作し、演目を演出する活動が掲載されている。6年生「動く影絵」¹⁹⁾では、影絵芝居は、美術、表演、音楽等の様々な芸術が一体となっている総合芸術であるとし、伝統的な劇や故事を影絵で演じる活動となっている。そして、3年生の「音の鳴るおもちゃ」²⁰⁾では、学習目標に「音の仕組みを考える、紙や廃材を使ってつくる」とあり、カスタネットやモビール、マラカス等の音の出る楽器の作品例が掲載されている。6年生の「手作り楽器」²¹⁾は、手作り楽器を使って楽曲を演奏することや、さらにより音がでよう工夫することが目標とされ、色水を使った音階づくり、竹筒、鉄管、缶等を使った様々な音程の出る楽器づくり等が紹介されている。中国の美術の教科書上に掲載されている総合芸術教材の数は少ないが、様々なタイプの総合芸術教材となっている。

3. 日本の小学校における総合芸術教育の展望

前章では、アメリカ、ドイツ、中国、台湾の4カ国の総合芸術教育の現状について取り上げたが、まず音楽科と美術科の両教科の視点から、各国における総合芸術教育の現状について把握できたことが本研究の成果といえる。そして、本研究の主な結果は次のようにまとめられる。

本論で取り上げた諸外国では、各国によって目的や方法は少しずつ異なるものの、総合芸術教育は公的なカリキュラムの中に組み込まれ、また教科書においても発達段階に即した教材例を見出すことができた。

そこで、日本における総合芸術教育であるが、教科の統廃合や教科の新設ではなく、各教科を残したまま図画工作科に音楽領域を取り入れたり、音楽科に造形領域を取り入れたりすること、また音楽科と図画工作科が一体となって行う活動を行うことが望まれているだろう。なぜならば、教科の統廃合は、台湾の例からも分かるように各教科の特性が希薄化してしまう問題がある。また中国のような新教科の設置は、現状として非常に難しいであろう。アメリカやドイツでは、カリキュラム及び教科書に他教科や他領域と関連する項目や教材例が掲載されていたが、日本では音楽科と図画工作科に限定し、芸術教育の中で音楽領域と造形領域を関連付けた学習を段階的に行うことができるプログラム及び教材の開発が適切であると思われる。このような総合芸術教育は芸術経験や理解を深めるだけでなく、両教科の特質、共通性及び相違性を再認識することにつながる。さらに、このような学習は小学校6年間で継続的に行われてこそ、感覚をひらき、想像力、感受性、表現力や集中力といった人間的な能力の育成につなげることができるだろう。最後に、学習内容を精選することもでき、合理的かつ効果的な芸術教育を導くことにもなる。これまで、指導者間の連携が必要になることから、役割分担や時間配分、評価方法の困難さが挙げられてきたが、具体的なプログラムを提示することで、これらの多くの問題が解決できるであろう。

以前にも音楽領域と造形領域を関連付けたカリ

キュラムや教材の開発は行われてきたが、音楽科と図画工作科の両教科の内容が十分には踏まえられておらず、またカリキュラム構造の構築と教材開発が別個に行われている場合が多かった。そこで、音楽科と図画工作科の中で、音楽領域と造形領域をどのように関連付けるのか、音楽科と図画工作科の連携の仕方、学年間の発展性、そして総合芸術教育に関する教材の目的や内容を具体的に提示する必要があると考えたのである。

本論では、教育課程と教科書を対象として研究をしてきたが、今後の課題としては、実際に各国の学校教育現場に出向き、総合芸術教育の実施状況を調査する必要がある。その上で、総合芸術教育における教材開発の観点、そして単元例や教材例を発達段階別に提示していくことである。さらには、幼稚園教育要領における表現領域と関連付け、幼小連携を踏まえたプログラムへと展開していきたいと考える。

〈引用文献〉

- 1) 井上朋子, 「図画工作科と音楽科の合科的な指導に関する研究」『美術教育学』(第31号), pp.76-81, 2010, 美術科教育学会.
- 2) 井上朋子, 「図画工作科と音楽科における合科的な指導の類型化とその可能性」『美術教育』(293号), pp.8-17, 2010, 日本美術教育学会.
- 3) National Association for Music Education, *National Standards for Arts Education*, p.13, 2011, Rowman & Littlefield Education.
- 4) 同書, p.107.
- 5) 同書, p.127.
- 6) 「アメリカ」『図画工作・美術のカリキュラムの改善に関する研究 —諸外国の動向—』pp.15-16, 2003, 国立教育政策研究所.
- 7) 2年, *Spotlight on Music* (Teacher edition), pp.98-101, 2005, SRA/McGraw-Hill.
- 8) 3年, *ART Connections* (Teacher edition), pp.35B-39A, 2005, SRA/McGraw-Hill.

- 9) 「Lehrplan für die bayerische Grundschule」, p.133, 2000, Staatsinstitut für Schulqualität und Bildungsforschung (ISB).
- 10) 4年, 児童用『Fidelio』pp.64-69, 2001, Schroedel Verlag GmbH.
- 11) 1・2年, 教師用『Farbe, Form und Fantasie』pp.27-28, 1999, Schroedel, Verlag GmbH.
- 12) 「97年國民中小學九年一貫課程綱要藝術與學習領域修正草案對照表」Word, p.1, 2010, 國民教育司.
(http://www.edu.tw/eje/content.aspx?site_content_sn=15326) pp.1-27. (2012.1.31アクセス)
- 13) 1・2年『生活』, 3～6年『人文と芸術』, 2001, 康軒文教事業.
- 14) 「国家课程标准专辑音乐课程标准」
(<http://www.being.org.cn/ncs/music/music.htm>)
- 15) 「国家课程标准专辑美术课程标准」
(<http://www.being.org.cn/ncs/fine-arts/arts/fine-arts.htm>) (2012.1.31アクセス)
- 16) 「国家课程标准专辑艺术课程标准」
(<http://www.being.org.cn/ncs/art/art.htm>) (2012.1.31アクセス)
- 17) 5年下『音乐』pp.18-19, 2004, 全国中小學教材審定委員會.
- 18) 5年下『美术』pp.28-29, 2004, 人民教育出版社.
- 19) 6年上『美术』pp.6-7, 2004, 人民教育出版社.
- 20) 3年上『美术』pp.26-27, 2002, 人民教育出版社.
- 21) 6年上『美术』pp.12-13, 2004, 人民教育出版社.